

パネル・ディベートの授業計画

パネル・ディベートの授業計画

国語の授業にパネル・ディベートを取り入れるにあたり、次の4つを学習目標としました。

- (1) 相手の立場や考えを尊重して論理的に話す。
- (2) 意見の展開を整理しながら聞き、自分の考えを深める。
- (3) 話し合いを通して他の見方や考え方を取り入れ、自分の考えを深める。
- (4) 相手を説得できる根拠のある意見文を書く。

以下のように、全8時間で学習計画を立てました。

〈第一次〉 2時間

- ① パネルディスカッションとディベートについての説明を聞く。
- ② ビデオ・ディベート「購買部は必要か」を視聴する。
- ③ モデル・ディベート「制服は必要か」を行う。
- ④ 論題を出し合う。
- ⑤ 第一次意見文を作成する。

〈第二次〉 4時間

- ① パネル・ディベートについての説明を聞く。
- ② 第一次意見文をもとに論題を選定する。
- ③ パネル・ディベートの準備をする。
- ④ パネル・ディベートを行う。

〈第三次〉 2時間

- ① 第二次意見文を作成する。
- ② 相互批評をする。
- ③ 清書をする。

いかにパネル・ディベートにもっていくか

生徒には、ディベートの経験がありません。パネルディスカッションについても、その名前は知っていますが、経験はありません。

そこで、前任校で行ったディベートのビデオを見せることにしました。自分たちと同じ中学生が行っているものなので、ディベートをイメージするには効果的なのではないかと考えました。

次に、台本を読む形でのモデル・ディベートを取り入れることにしました。ディベートを実際にやってみることで、ディベートを理解し、パネル・ディベートへの意欲づけを図るためです。パネル・ディベートは、あくまでもディベートの応用形であり、立場が2つではなく複数になるパターンであることを前提にしました。

パネル・ディベートをもとにした意見文作成

前任校では、ディベートそのものを行うことを主目的としました。今回は、パネル・ディベートにより討論を経験させることも重要ですが、そこから一人一人が自分の考えを深め、それを意見文としてまとめることを学習の最終ゴールとしました。自分の考えを深める手段として、パネル・ディベートを位置づけたわけです。